

	号外	定価1部2円	参院選・選挙区勝利を勝ち取るも、比例区「吉田ただとも」議席守れず。皆さんの御奮闘に感謝いたします。	
	昭和34年4月1日	発行所 盛岡市内丸10番1号		No.2373
	第3種郵便物認可	岩手県庁内		2016年 7月12日
		岩手県職員労働組合		

7.10 参議院選挙投開票

岩手選挙区 (野党統一候補) **きどぐち英司 当選!**

全国比例区 (自治労組織内・社民党党首) **吉田ただとも 議席失う**

岩手では善戦も届かず—今後の取り組みの足掛かりに

7月10日、参議院選挙の投開票が行われ、各選挙区の結果が明らかになった。岩手選挙区、野党統一候補の『きどぐち英司』は328,555票を獲得し、見事初当選を果たした。全国比例区、社民党党首『吉田ただとも』(自治労組織内)は、個人票で153,197票を獲得し奮闘するも、残念ながら議席を守ることができなかった。



木戸口 英司 (野党統一)	328,555票	当選
田中 真一 (自民)	252,767票	
石川 幹子 (幸福)	34,593票	

野党統一候補として臨んだ木戸口候補は、出馬表明の遅れを挽回すべく、支持拡大に精力的に取り組む、当初より自民党候補をリードしているとの報道であったが、選挙期間中には自民党大物議員の来県等の影響もあり、猛迫を受けるも、最後は組織の力で引き離し、見事当選を勝ち取った。

総得票数	1,536,239票 (2.7%)	—獲得議席1
個人得票数		
福島 瑞穂	254,956票	当選
吉田 忠智	153,197票	

吉田候補は「アベ政治の暴走を止める」との公約を掲げ、アベノミクスの経済政策の転換、安保関連法(戦争法)廃止と憲法改悪阻止を訴え、選挙戦に臨んだ。全国の自治労の仲間を中心に支持拡大に取

り組み、地元九州を中心に精力的に活動し、その結果6年前（初出馬時）に比して個人票を約2万票上積みし、岩手でも支持を伸ばしたが、社民党全体の獲得票が伸びず、結果議席には届かなかった。

議席を死守できなくなったことは痛恨の極みであるが、平和憲法を活かし、勤労者・生活者の視点に立った政治を取り戻すため、支持の輪を広げてきたことは、一定成果といえる。この成果に確信を持ち、次の取り組みにつなげていかなければならない。

【ここが問題！安倍自公政権】

改憲勢力2/3獲得!?憲法改悪が目前に

今回の選挙結果により、安倍自公政権が議席を伸ばし、改憲勢力全体では議席獲得のポイントとしてきた、参議院全体の2/3に到達する78議席（参議院全体で162議席）を獲得した（下図）。このことにより参議院でも憲法改正を議員発議することが可能となる。安倍首相は直ちにこのことに言及していないが、今後「国民の信を得た」として「憲法改正」に踏み切れることは明白である。

問題となるのは自民党の憲法改正草案である。具体的には、国民主権を規制し、軍隊保有を明文化するなどの9条改正を行い、さらに「緊急事態条項」を盛り込み、軍隊を時の首相の一存で戦争に向かわせることが出来るとするものである。

今後、自民党が発議する憲法改正が本当に国民のためのものなのか、しっかり見定め、改悪となる内容については反対の声を上げていかなければならない。

改憲勢力＝自民・公明・おおさか維新・日本のこころ

非改憲勢力＝民進・共産・社民・生活・他

非改選 84議席	今回獲得 78議席	今回獲得 43議席	非改選 37議席
162議席(2/3以上)		80議席	

「アベノミクス」で賃金抑制強化！

安倍首相は経済活性化のために民間企業に対し、春闘で賃金を引き上げる「官製春闘」を要請し、大手を中心に賃金引き上げの動きを作り出した。しかし、一方で自民党のマニフェストに基づく、公務員賃金の抑制策を続けている実態もある。

今年4月に導入された「給与制度の総合的見直し」は、自民党が「地方では公務員賃金が高い」とし、人事院に要請し制度化させたものである。しかし、これは国家公務員の実態であり、地方の民間賃金に準拠してきた地方公務員は該当しない内容であるが、国の圧力により地方にも導入させられ、賃金抑制が行われる結果となった。

さらに、今年は自民党の政策である「女性活躍」の視点から「配偶者への扶養手当の見直し」を人事院に要請し、人事院では今年度見直しを行うことを明言している。この見直しが賃金抑制とならないよう、今後の人事院の動きを注視しなければならない。

この他、労働者派遣法を改悪し、さらに残業代ゼロ法案の実施を目論むなど、私たち労働者への攻撃はさらに強まることが予想される。政治が私たちに及ぼす影響を認識し、今後の賃金闘争・政治闘争に結集することを願います。